

Voice

[ヴォイス]お客様の声をお伝えします



在宅復帰の 向上をサポート

注目商品！

介護老人保健施設様向け



対談

Part 01

「R4システムの効果と老健の役割」

介護老人保健施設 若宮苑 安藤副施設長が語る

Part 02

「老健向け記録システムの必要性」

北海道循環器病院様 × NDソフトウェア

全老健認証取得済み R4システム

老健向け記録システム

老健カルテシステム



介護保険対応版ほのぼのNEXTに実地指導統計機能が登場！



NDソフトウェア株式会社

R4システムの効果と老健の役割

—介護老人保健施設 若宮苑 安藤副施設長が語る—

全国老人保健施設協会 R4調査検討委員会のメンバーでかつ群馬県高崎市にある

介護老人保健施設若宮苑の副施設長でもある安藤繁さん。

R4システムの開発に携わってきた安藤さんに、R4システムについて取材をさせていただきました。

R4システムは適切性の査定

安藤副施設長 施設を利用した最初の日に既に暫定ケアプランが作成されなければならない。R4システムでは、インテークを重視することで老健利用目的の明確化、つまりニーズがはっきりする。かつてはニーズアセスメントが出来ておらず、例えば転倒や誤嚥のリスクが高いといったリスクマネジメントができていなかった。サービス利用前に加えて、利用開始後の多職種によるアセスメントはチームワーク機能を活かす前提条件となり、その有効性は既に各種の研究でも検証されている。R4システムは老健の機能を最大限に發揮して本来の老健らしくあるために、本来のケアマネジメントを適用したシステムです。医療モデルではなく生活モデルのカンファレンス型チームを形成し、中心に利用者と家族がいる。R4システムは、排除の論理ではなく適切性の査定であり、老健は次善ではなく最善のサービスであると考えています。できないことをできるように支援する。できないことができるようになるかもしれない。そういう形でやっていこう、これが我々の考え方で自立支援型であり、目標指向型で行ける良さがR4システムでこだわっているところです。



R4システムの全面導入に効果あり

安藤副施設長 「介護老人保健施設における新ケアマネジメント方式(R4方式)の在宅復帰率・回転率への影響に関する調査研究事業 報告書」にも載っていますが各老健施設にアンケートをとった結果、R4システムを全面導入した施設は、在宅復帰率と回転率が一部導入や導入予定なしと比べ高い結果を出している。全面導入で在宅復帰率が全体の30%近く占め、導入予定なしは全面導入と比べて13%ほど在宅復帰率が下がるという結果が出た。回転率に関しても同様で、全面導入で回転率が高くなっている。もちろん良いことばかりではありません。スタッフの教育がたいへんということで断念することもあります。それでも全面導入した場合、職員のモチベーションは全体の50%以上がアップしている。

R4システムはシステムなので、一部導入ではなく全面導入しなければ効果は当然低くなる。新しい仕組みに変えていくことに抵抗があり難しくも感じるけど、R4システムは老健施設もスタッフ自身も質が上がります。



NDソフトウェア株式会社
ICT事業部
五十嵐 悠太



医療法人 十葉会
介護老人保健施設 若宮苑
〒370-0031
群馬県高崎市上大類町759
TEL 027-352-1019

多職種協働の実現化

安藤副施設長 かつて老健は多職種であるということについての効果に注目していなかった。老健では、必ずカンファレンスがありお互い協力し、お互い知らない領域を教えることができる。自分の知らない領域を教えてもらうことはすごくいいことです。「協働」=連結・連携・協同の上位概念、これもR4システムの開発でこだわったところです。多職種協働とは同じ目的のためにコラボレーションをしないと意味がない。一緒にサービスを提供するだけではダメ。同じ目的のために力を合わせることが大事。

老健本来の機能

安藤副施設長 老健に入るのがゴールではない、次がある。最善のサービスとして老健を選んでほしい、そこを強く言いたい。過剰介護も過少介護もダメ。目的を明確にすることはとても良いことで、利用目的がわからなければ利用目的を明確化するためにまず入所しましょう、協力するから共に乗り越えましょう、という協同ですよね。例えば、家族がケアの仕方を分からなければこちらが教えることで専門家が入らなくて済む。そうした協同によって、入所させっぱなしということがなくなり老健本来の機能が発揮できる。ここも力を入れているところです。

我々は自分たちの老健についてもっと知らなければいけない。出来ることと出来ないことが分かるという点でもR4システムは良い。

現場と開発側の双方連携

安藤副施設長 これから私たち老健も少しずつ変わらなければいけない。システムについては色々なものが最初から全部そろっていても使わない。

開発:五十嵐 我々も開発する側として、R4システムについて最新の情報をどんどん取り入れていきたいと思って

います。

安藤副施設長 お互いギブ&テイクで現場と開発側でいろんなアイディアが取れればいいですね。

R4システムのオリジナリティな機能についてアイディアも欲しいと思っている。今手で書いているものを電子化するだけで現場は大分違う。

老健カルテシステムとR4システムの共通性について

開発:五十嵐 「ほのぼの」シリーズのほのぼのNEXTには、R4システムの他に老健向けの多職種間の情報共有をツール化した記録システム「老健カルテシステム」を、北海道の循環器病院様と共同で開発しました。単純にケアするだけでなく何のためにケアをするのか、問題指向型 -POMR- の考え方を導入しました。各利用者の問題を多職種間で共有することで、より良いケアができる。問題指向型という点ではR4システムにも通じ、職種ごとの考え方をうまく共有できるのではないかと思っています。問題やニーズを分かっている上で、それぞれ多職種で記録・共有し目標に向かっていく、そういう意味で共通性を持っているのではないかと思います。

安藤副施設長 みんないいゴールを設定することを考えている。考え方として目標指向型。R4システムは入所目的というか、ニーズを多職種で協議検討するもの。ケア内容が記録の先頭にあって、それに対して記録が付けられる。自分の職種分、多職種分エリアの記録内容が見れるというのは良いですね。



老健向け記録システムの必要性

—北海道循環器病院様 × NDソフトウェア—

ほのぼのNEXTの老健カルテシステムは、北海道循環器病院 介護老人保健施設グラーネ北の沢様と
介護老人保健施設サンビオーズ新琴似様が考案されたノウハウをNDソフトウェアがシステム化したものです。

全職種の情報共有が一番大事

高橋施設長 旧商品である介護保険対応版システム ほのぼのSilverでは診療情報提供書が発行できないなど含め、機能が多くすぎて現場の職員では情報の活かし方が分からずなかなか使いこなせなかった。老人保健施設は、医師を中心として、相談員、ナース、理学療法士、介護福祉士、栄養士など様々な職種が動くわけです。だからすべての職種の記録が一つの画面で確認できる記録システムが必要だと感じ、ほのぼのSilverの後継商品であるほのぼのNEXTでの実現を伝えてきました。老人保健施設では、全職種が一人一人の利用者に対して多く関わり、利用者の在宅復帰という目標に向かって様々なケアを行います。だからこそ、他の職種ではどんなケアをしているのかという情報共有が一番大事。「老健カルテシステム」は職種ごとのケアの流れやケア前後の利用者の状態が全職種で一目で分かりやすいシンプルなものになったと思います。シンプルなつくりだから、新人や新たに働くことになった職員であっても簡単に使えると思います。



チームケアの実現と残業の削減

高橋施設長 介護の現場では、とにかく書く時間がない。だからシステムの導入により、簡単に記録ができ、共有され、二度打ちがなくなることで、これまで残業で行っていた記録が勤務時間内にできるようになる。また、問題が発生した際それに対してどう判断し、どうケアをして、どういう経過なのか。それらを記載することによって漏れを無くし、全職種で問題や課題を共有することでチームケアができ、そもそも老健の役割である在宅復帰につながるのだと思う。

システム開発者が現場を知る

鉢呂様 現場だけで話すと上手に伝えられないですよね。思いがいっぱいあっても言葉で伝えられない。上手に伝えられないから要望を伝えて、思いの100とは全然違うものが出来て当然なんですね。それをどう埋めていくかがここ数年すごく大変でした。今回はNDソフトウェアのシステム部の方に現場に入っただけ本当に必要なものは何かを感じてもらったのはよかったです。実際にシステムを作る人が現場に入り込むということは大事だと思いました。

開発：五十嵐 これまでのような介護福祉士を中心とした記録ではなく、老健カルテシステムは全職種の記録を重視し、本来見るべき情報をどう抽出し、どう見せるかというのが一番難しかったですね。

高橋施設長 一画面でアナログに見られるのが一番いいかなと。アナログ情報が一番早い。だから入力はデータ





社会医療法人 北海道循環器病院
介護老人保健施設グーネ北の沢
〒005-0832
北海道札幌市南区北ノ沢1804-52
TEL 011-572-2002



社会医療法人 北海道循環器病院
介護老人保健施設サンビオーズ新琴似
〒001-0902
北海道札幌市北区新琴似2条5丁目1-1
TEL 011-763-9300

だけど出力はアナログの形式の方が良いのではないか…と。そういう意味では凝った仕組みではなく、シンプルな作りが一番良いのかなど何度も話し合ってたどり着きましたね。

今後の老人保健施設の在り方

大堀理事長 老人保健施設でやはり一番大事なのは利用者の希望を考えた、的を得たりハビリをしなければいけないこと。老人保健施設というものは中間施設としてあるべきだろうし、家庭にくたびれてきたら早めに我々のところに来ていただき、また元気になってお帰りいただきたい。そういう立場なのかと思っている。



社会医療法人
北海道循環器病院
理事長
大堀 克巳様

ソフトウェア会社に求めること

大堀理事長 色んな職種の人が同じ内容を入力する事がないように、入力は一回で終わらせてあげたい。行政に出す資料や書類、ケアマネとの関わりで出てくる書類もお互いに共有し二度打ち三度打ちはしない、これが希望。そうなると老人保健施設の職員が楽に仕事ができる。残業がなくなり、負担が減る。したら、利用者に向き合う時間がしっかりとたくさん取れる。システムはやっぱりそこだよね。

開発部長：平 私どもも何とか良いシステムを作りたいという気持ちはあるても、業務の理解がないため断片的なシステムになっていて苦しんできました。理事長はじめ高橋施設長のご協力もあり、今回第一歩として老健カルテシステムがリリースできました。やはりシステム開発者として理



NDソフトウェア株式会社
取締役
平 繁美

事長とは異なった意味で社会に貢献したいという思いが強くあったので、是非ともそういう声を形にしたいなと思ってきました。

高橋施設長 私が考えるチーム医療というのは、誰かがリーダーシップをとらなければいけない。やはり医師を中心になって様々な職種の人達が、お互いがお互いを尊敬し合ってサービスを提供していく。医療、介護が中心となっていく老健が大事だと思います。

佐々木様 NDソフトウェアさんでは色々な老健さんとのやり取りがあると思います。ぜひシステムメーカーとして色々な仕事の仕方を我々に教えていただきたいと思います。

開発：五十嵐 ほのぼのNEXTは今後もまだまだ機能強化し、「情報共有の仕方」を何より一番に考えていきたいと思います。

フェニックスに託す思い

大堀理事長 やはり東北の復興ですね。もう一回しっかりと、不死鳥のように諦めないで立ち上がろうというメッセージです。そしてNDソフトウェアが少なくとも東北の人々の会社のリーディングカンパニーになってほしいと、東北の人々に元気になってほしいとそういう思いを込めています。

東日本大震災で
被害を受けた皆様の
一日も早い復興を祈願し、
老健カルテシステムの
運用にあたり必要な
ラインナップを
Phoenix=フェニックスとして
社会医療法人北海道循環器病院
大堀克己理事長によって
名付けられました。



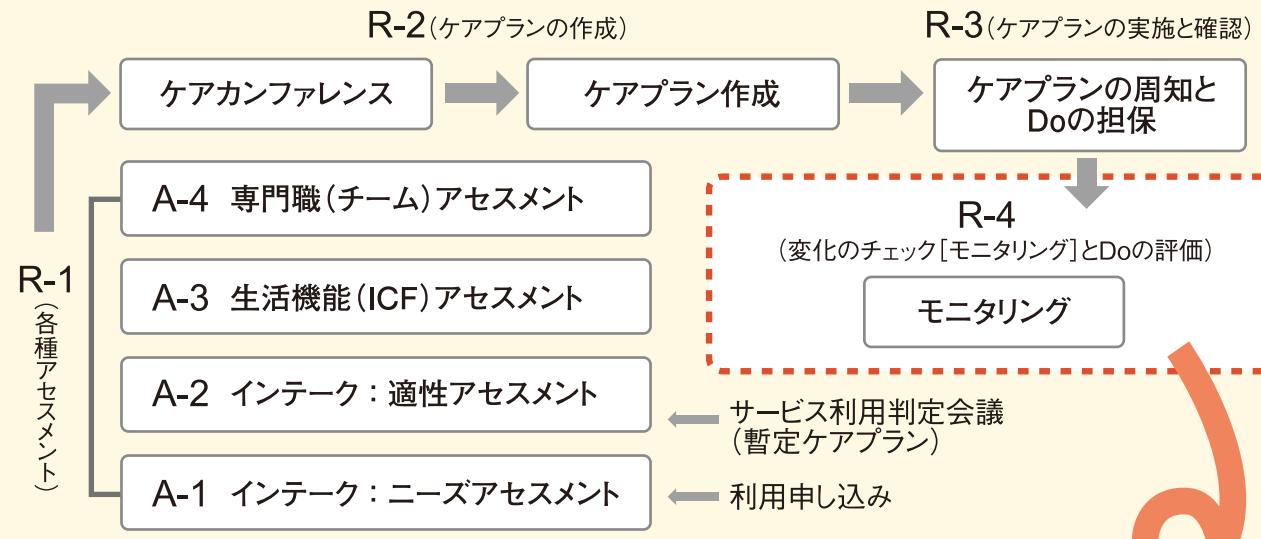
多職種間の情報共有で老健施

R4システム

多職種を生かした老健施設ならではのケアマネジメントで、老健本来の在宅復帰支援機能や在宅生活支援機能を強力にサポート。

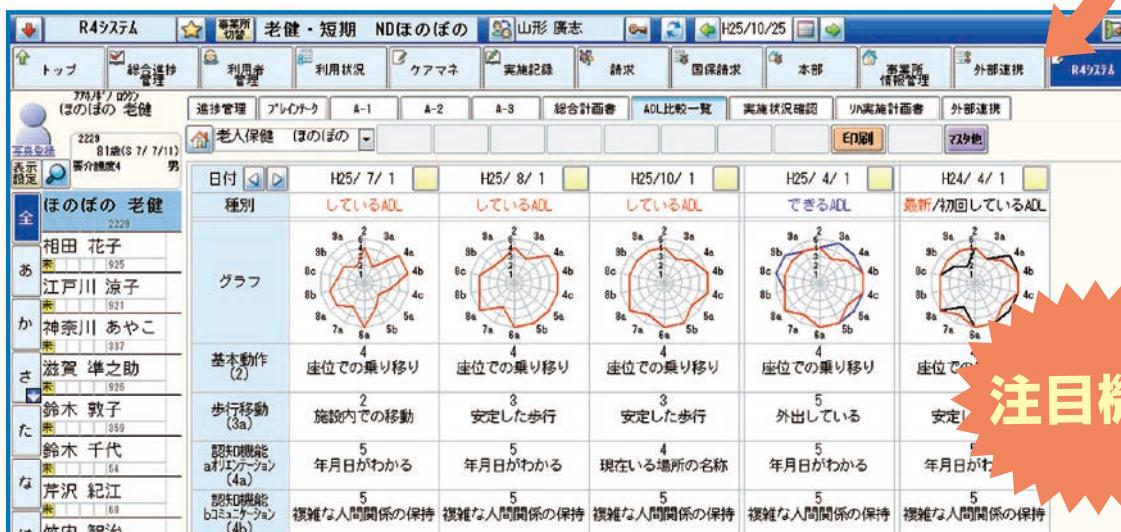
多職種間で「しているADL」の意識統一を図り、
チーム全体で「できるADL」の検討に役立ちます。

全様式をシステム化



ほのぼのNEXT
ならでは!

→ADL比較一覧機能を搭載



ADL比較一覧画面

利用者ごとの問題/課題/リハビリ/ケア

利用者の
目的

プロブレム
(問題/課題)

ケア内容の
共有

ケア後の
経過

在宅
復帰後の
住環境

設の在宅復帰向上をサポート

老健カルテシステム

医師からの指示内容、他職種のケア内容やケア後の経過等、見える化を図り、全職種で情報を共有。

利用者ごとのプロブレム(問題/課題)を職員間で共有できるため、多職種共同による一貫したケアが可能です。

一貫したケア



ドクター



看護師

多職種間の情報共有を実現



栄養士



老健カルテシステム

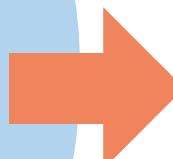


理学療法士



在宅復帰の実現をサポート！

介護福祉士



など、利用者ごとに合ったケアの提供

→ 在宅復帰率アップ！

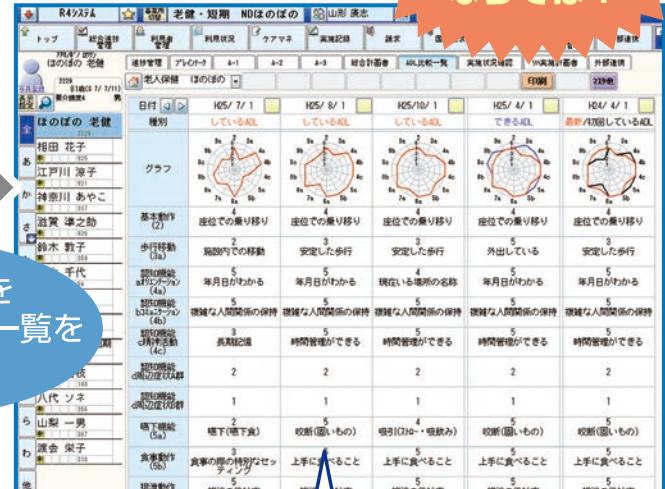
R4システムのご紹介

公益社団法人 全国老人保健施設協会 認証取得済み

新全老健版ケアマネジメント方式R4システム全様式に標準対応！

A-3画面

A-3の内容を
もとにADL比較一覧を
自動作成！



ADL比較一覧画面

レーダーチャートで利用者の状態を視覚的に把握！
多職種で「しているADL」の意識を統一できます

進捗管理画面

さらに！ プランの進捗状況の管理が簡単！

利用者毎のアセスメントや
計画書等、最新の作成日が一覧表示！

全老健提供 電子化シートの取り込みが可能※。老健の利用目的や利用後の対応方針を明確にし、老健本来の役割・機能を実現するためにサポート。

(※)主にA-1、A-2、A-3、総合計画書の取り込みが可能です。ただし、一部取込めない項目もございますのでご注意ください。

介護保険対応版
ほのぼのNEXTに

実地指導統計機能が登場！

各都道府県が定める運営指導前提出資料への
転記元資料として活用。

各都道府県の監査や指導などで
必要となる共通項目を出力

実施指導統計画面

老健カルテシステムのご紹介

問題指向型医療記録「POMR」の考え方を採用

医療と介護の情報共有を可能にします！紙カルテ1・2号紙の情報共有をイメージし、多種職間で入力された情報を一画面で確認可能！



指示/依頼のある
利用者を一目で把握！

一覧記録画面

日々の指示/依頼の発生状況や
対応すべき件数を一目で把握できます

指示/依頼のある利用者の
状況を瞬時に確認

記録情報から自動的に
サマリの作成が可能
(※一部制限がございます。)

(弊社 ケア総合記録システム導入時)

利用者が抱えるプロブレム
(問題 / 課題) リスト化し、
全職種間で共有

No.	問題名	発生日	発生者	コメント	状態
1	発熱	H25/ 8/ 5	看護師		治療中
2	気管支炎	H25/ 8/ 5	医師		治療中
3	糖尿病・前立腺肥大症	H25/ 8/ 9	介護支援専門員		治療中
4	課題1	H25/ 8/ 9	介護支援専門員		治療中

プロブレムリスト画面

自職種記録エリア

他職種参照エリア

他職種のケア内容やケア後の経過などもすぐに確認できるため、利用者ごとの問題・対応等を共有し、チームケアとして多職種共同による一貫したサービスの提供が可能。

専門職が集まっている老健で、 在宅に向けた人生のストーリーをここで考える

医療法人 新正会 ふじみ野介護老人保健施設 ベテラン館
副施設長 内田英一様

施設とR4システムの方針がマッチ

施設がオープンして5年目になるが、当初から在宅復帰を目指した施設にすることが方針だった。開設当初のアセスメントはニーズの抽出がしにくく、使い勝手が悪かった。そのため、より施設の方針に合うものを探していた。その中で老人保健施設協会から新しいケアマネジメント方式が出るということで、最初の発表の研修会を行ったのがR4システム導入のきっかけとなった。

実際にR4システムを運用してみると、インタークからアセスメント、プランの周知と実行の担保、モニタリングと評価、再アセスメントの一連の流れが明確になっており、ニーズ抽出のみのツールではなく施設生活全体をとらえていると感じた。なかでも、ケアプランの実行の評価や各専門職のアセスメント、会議が効率的に行える点などは気に入っている。

老健の利用の方法については地域の居宅ケアマネも提案しているが、自宅生活ができず特養に入れないと老健に入所するのではなく、自宅生活が不自由になってきた段階で老健を利用し、専門職のチームでの評価を行い自宅での生活を長く続けていただけるよう、老健をうまく活用してほしいと思っている。この思いが、R4システムにもあり、施設の方針とマッチしていると感じた。R4システムは行うことが段階的に明確化されているので、プランやサービスをその都度見直す機会ができる。それによって、プランが皆のものとなり、職員全員の認識も一致するので施設が一丸となる。

また、各専門職の意見も家族に見て頂くことを意識して作成するため、分かりやすく説明しやすいものになる。家族や利用者との距離も縮まる。



現場の意識付けが大切



施設全体で「在宅復帰」を目指すという方針がある。R4システムを導入すると在宅復帰率が高くなるという結果が出ているが、それは、R4システムを導入することで、現場の職員が在宅復帰に向けて何を行うのかが明確になり、方向性が見出しやすくなるからだと感じている。

在宅復帰率や回転率を上げるために、現場職員の意識付けが重要となる。当施設では年2回、職員面談を行い意識付けと目標設定をするようにしている。

専門職の距離が縮まる

老健は専門職の集まりだからこそ、それぞれ専門的な立場で意見がでてくる。専門だからこそ意見の相違もある。しかしどの部署が優先という訳ではなく、それぞれの意見に対してケアマネが中心となり、現状何が必要なのか各専門職の意見をまとめていけるとよい。R4システムは直接各専門職の考え方を聞け、部署ごとの評価もできる。各専門職の意見をまとめ、方向性をまとめ示していくのが理想。それを行うためにケアマネは専門職間での根回しを行うなど現場とのやり取りが増え、利用者の状況把握もスムーズになったと感じる。利用者やご家族の生活の質を考えた際、入所中もしくは次の評価までの期間に何を最優先させるのか意見をまとめる事が出来るようになったと思う。

今後も、最良の人生のストーリーを職員一同、利用者様、ご家族様と一緒に考えていきたい。



医療法人 新正会
ふじみ野市 介護老人保健施設 ベテラン館
〒356-0051
埼玉県ふじみ野市亀久保1833-5
TEL 049-278-7110

サポートスタッフ顧客満足度について

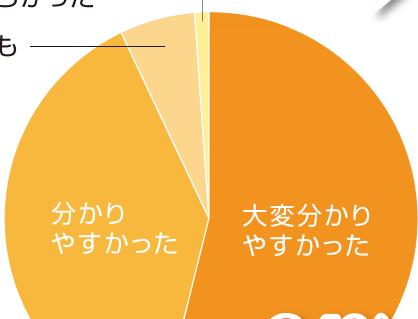
2013年7月～2014年6月 NDソフトウェア調べ

ご導入後も安心サポート! をご提供いたします

質問1

操作説明は
分かりやすかったですか?

分かりづらかった
どちらとも
いえない

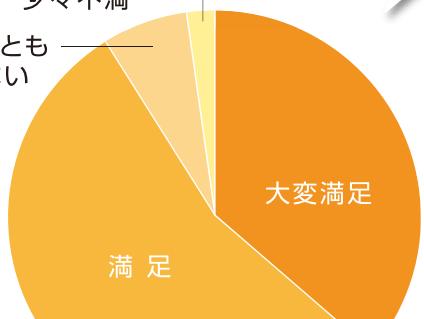


おおよそ**94%**の方が
分かりやすかった、
大変分かりやすかったと回答!

質問2

説明内容にご満足
いただけましたか?

少々不満
どちらとも
いえない



おおよそ**92%**の方が
満足、大変満足と回答!

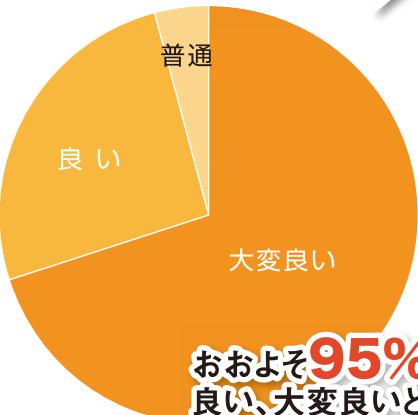
質問3

訪問したサポートスタッフの
印象はいかがでしたか?

普通

良 い

大変良い



おおよそ**95%**の方が
良い、大変良いと回答!

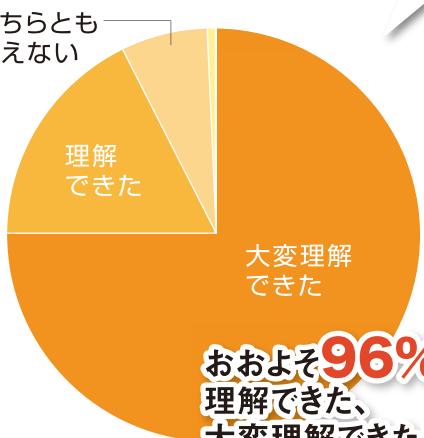
質問4

システム内容について
ご理解いただけましたか?

どちらとも
いえない

理解
できた

大変理解
できた

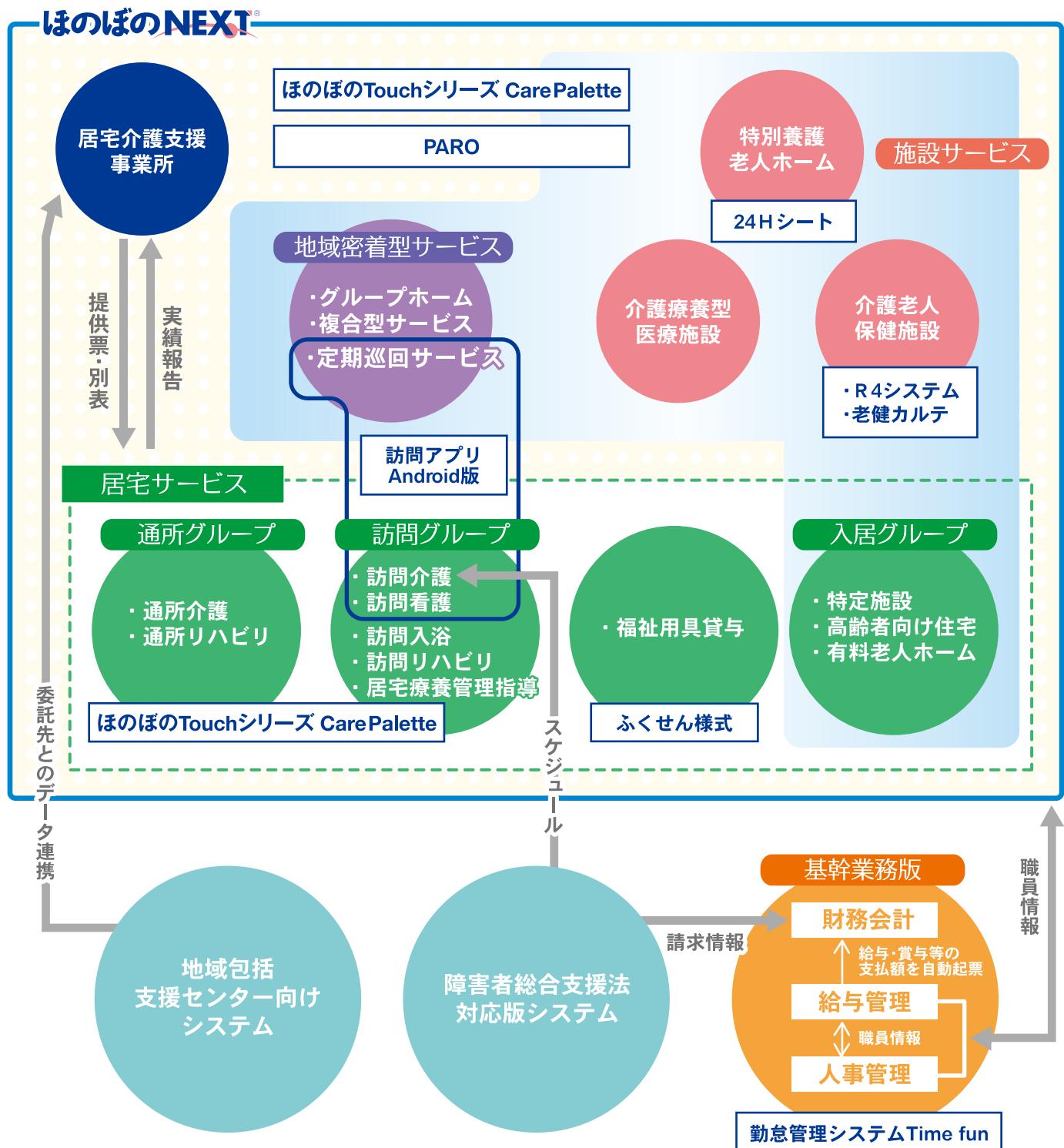


おおよそ**96%**の方が
理解できた、
大変理解できたと回答!

お客様の声

- 簡単な質問でも分かり易く教えて頂いた。追加の質問でも嫌な顔せず丁寧に教えていただきました。
- 親切でこちらのペースに合わせて頂きました。聞くときはわかっているように感じますが、実際にやってみるとわからないこともあります。これからのフォローもお願いします。
- 丁寧で気分良く説明を聞くことが出来ました。
- その場で変更したい事や希望を伝えるとすぐに対応してくれ、大変助かっています。
- NEXTへの切替えがスムーズにいき、満足しています。

「ほのぼの」シリーズ 運用イメージ図



※ほのぼのNEXTは、エヌ・デーソフトウェア株式会社の登録商標です。

また、本パンフレットに記載されている、他社登録商標・商標をはじめ、会社名、システム名、製品名は一般に各社の登録商標または商標です。

なお、本文および図表中では、登録商標マークは明記しておりません。

※必須システム・推奨機器等、詳細はお問い合わせください。

NDソフトウェア株式会社

[本社] 〒992-0479 山形県南陽市和田3369

フリーダイヤル

0120-945-597 (9:00-18:00 土日祝をのぞく)

最新の情報はこちらから

<http://www.ndsoft.jp/>

NDソフト

検索

下記販売パートナーまでご連絡をお願いいたします。